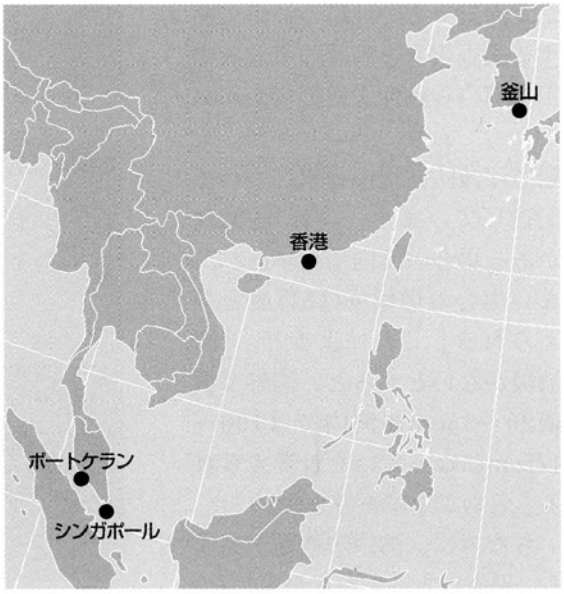
World Watching 27 ワールド・ウォッチング

新たなクルーズ動向
—アジアを中心として—

宮地 豊
財団法人港湾空間高度化環境研究センター
情報研究部長



長年、客船は人々が世界を移動する交通手段として位置づけられてきたが、飛行機・飛行場の技術が進み、ジャンボジェット（B—747）に代表される大型機の出現とともに、交通手段としての主役を航空に譲り渡した。そして、船旅それ自体を目的とした客船・クルーズが生まれてきた。

典型的なクルーズとしては、欧米人を中心としたいわゆる豪華客船がイメージされ、日本においては、クルーズ元年といわれる1989年から本格クルーズ船の就航が始まり、主に日本人を対象とした日本型クルーズが浸透してきている。

一方、近年では、従来のクルーズのビジネスモデルと異なる新たなクルーズスタイルが出現しクルーズ人口の増加、10万総トンクラスのクルーズ船の建造が見られるようになっている。また、アジアでは、香港、台湾、シンガポール、マレーシアなどで新たなクルーズスタイルが生まれている。これらの各港では、クルーズに関する成熟度、施設整備の状況、官民の役割分担が大きく異なる。

そこで、筆者が調査したアジアのクルーズを中心に最近のクルーズ動向とクルーズターミナルの特徴を紹介したい。

新たなクルーズの特徴

アジアにおける新たなクルーズスタイルは、1993年に発足したスタークルーズ社によって導入された。スタークルーズ社ではその後、シンガポール、香港、タイ（ラムチャバン）、台湾（基隆）をベース港として活動してきた。また、日本航路としては、神戸・博多・別府などと上海・釜山などを結ぶ航路を就航させたが、2001年9月の同時多発テロ以降の経営見直しにより日本ベースの航路は休止している。

従来のクルーズとは無縁であったアジアの人々に受け入れられているこれらのクルーズの特徴は、以下の通りである。

①短期・定期・定点のクルーズ（1泊から4泊程度で、週の決まった日に出航し、決まった地点に寄港する）

②低額（人件費の削減、サービスのオプション化（一部有料化）などにより、1日あたり1万円程度の設定としている）

③アミューズメント型船内プログラム（子供用の施設、歌・踊り・マジックなど娯楽重視のプログラム）

これらの設定が、中国系、インド系など人口の多いアジアの人々に受けていると共に、近年のベトナムブームなどの影響もあり、日本からのフライ＆クルーズとしても注目されている。

アジアの旅客ターミナルの特徴

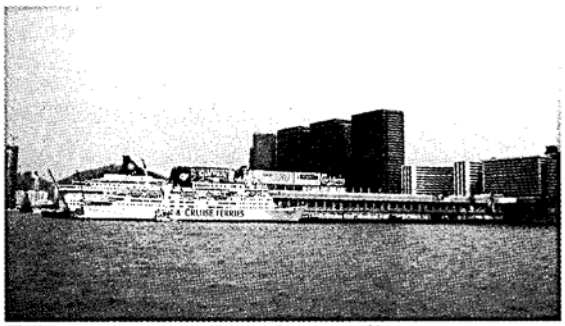
昨年度訪問したクルーズターミナルについて紹介するが、各国によって状況は大きく異なる。

●釜山港

—暫定客船ターミナルと今後のクルーズターミナル計画—

釜山港は、昨年訪問当時は博多港との間で25,000トンの定期クルーズが就航していたが、国際クルーズターミナルがないため、タデポ地区の貨物上屋を改造した暫定的な旅客ターミナルを利用して

釜山港（タデポ港区）の旅客上屋


香港のオーシャンターミナルとクルーズ船

いた。釜山港においてはクルーズに対する取り組みはこれからであり、Marine Pier地区に新たなクルーズターミナル建設の計画がある状況である。

●香港

—民間主導のオーシャンターミナル—

香港の国際クルーズターミナルである「オーシャンターミナル」はヴィクトリアハーバーの中心に位置し、突堤式で延長380ｍ、幅75ｍ、水深は10ｍから11ｍである。両側に大型クルーズ船の接岸が可能でボーディングブリッジによって乗下船が可能である。

香港の特徴は政府の港湾・海事部門であるMarine Dept. は民間ビジネスに関知していないことであり、オーシャンターミナルも民間企業が運営している。そのため、旅客ターミナルビル内は高級ショッピング店等が入っている商業施設となっている。

●シンガポール

—PSA（シンガポール港湾局）と政府観光局の連携—

シンガポールの外航クルーズや国際・国内フェリーの基地であるシンガポールクルーズセンター（SCC）はワールドトレードセンターの海側で、観光地であるセントーサ島へのケーブルカーの下に位置し、1992年6月18日に供用開始した。

国際客船ターミナルはバース延長245m（水深12m、最大船長300m）、160m（水深11m、最大船長250m）、150m（水深10m、最大船長180m）の3バースからなっている。セントーサ島を結ぶケーブルカー（写真参照）によってクリアランスは最大52mである。

シンガポールにおける特徴は、シンガポール政府観光局内にクルーズ担当部署があり、政府観光局とPSAのクルーズ部門であるシンガポールクルーズセンターが協力に連携してクルーズ船の誘致、ターミナル整備を行ってきていることである。

両者が共同したプロモーションとしては、クルーズ関係のイベントやセミナーへの参加、フライ＆クルーズに関して海外の都市での航空会社、旅行会社と共同でのプロモーション、クルーズのリピーターへの働きかけ、ASEAN諸国に対して連携した地域の売り込みなどがある。

●ポートケラン（マレーシア）

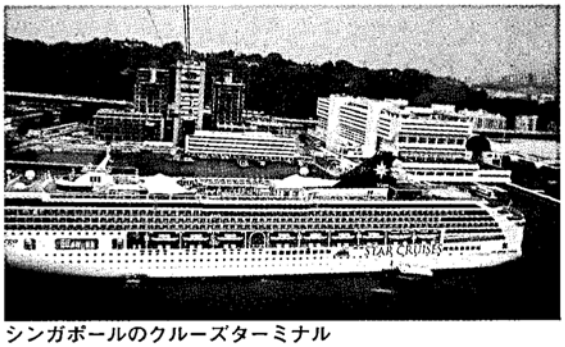
—民間が整備したクルーズ船専用ターミナル—

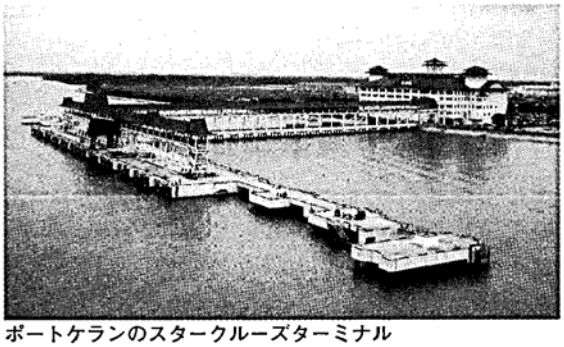
ポートケランのクルーズターミナルは、スタークルーズ社によって専用クルーズターミナルとして整備され、1995年12月に供用開始された。岸壁（桟橋）は3バースあり、延長200m（350m）水深11.1m、120m（195m）水深10m、45m（120m）水深10m（注：括弧内は係船ドルフィンを含む延長）となっている。

このターミナルは、民間によって整備されたクルーズ船専用ターミナルであるため、岸壁はもちろんのこと、ボーディングブリッジ、防舷材、給水・給油・廃棄物処理の対応や客と従業員や車の動線が分離された通路などが専用的な仕様となっている。

また、スタークルーズ本社はこのクルーズターミナルビル内にあるが、このターミナルビルには、スタークルーズの各船の航行ルートや港がデータベース化され、航行や入出港の操船訓練に活用されている操船シミュレータが設置されている。

このクルーズターミナル周辺には、賑わい施設はないが、周辺開発のマスタープランはあるため、今後の開発が注目される。


シンガポールのクルーズターミナル


ポートケランのスタークルーズターミナル